

**事例発表3****Twitterとブックログでコミュニケーション**

愛知教育大学附属図書館 沓名正樹

愛知教育大学附属図書館では、主たる利用対象がソーシャルメディアの利用率が高い大学生ということもあり、Twitterとブックログを活用している。

Twitterは情報発信だけでなく、利用者と双方向でコミュニケーションがとれるように運用している。

Twitterを利用するにあたり、リクエストの募集手段の一つとして位置づけ、開始させた。今までは図書館に来て専用紙に記入しなければ受け付けていなかったリクエストを、気軽に行えるようにすることが

できた。現在でも定期的にTwitterでリクエストが寄せられている。

また、学生がツイート（つぶやき、発言のこと）した大学内の桜や紅葉の写真、「携帯電話の落とし物を見つめました」というお知らせをリツイート（転送）するなど、学生にとって有益・興味深い情報は積極的に共有している。

それ以外に、ほぼ毎日【今日の一冊】と題し、おすすめ図書を紹介している。これは新刊カタログのウィークリー出版情報を見て購入した図書を、版元である日販図書館サービスの了承のもと、掲載されている紹介文をツイートしている。何度もリツイートされる場合や、著者からお礼のコメントが寄せられるなど、利用者のみならず非常に好評である。

次にブックログについて、これはネット上に自分の本棚を設けることができるソーシャルメディアである。そしてその本棚におすすめや図書の感想を紹介することができる。Twitterに比べれば双方向性は低いが、利用者は気に入った人の本棚を登録し、そこに図書が追加されたり、感想が載れば自分のタイムライン（投稿が時系列に表示される）に通知される仕組みになっている。

本学では、ブックログを図書の紹介ツールとして利用し、教員の指定図書や学生用図書、選書ツアーで購入した図書などをカテゴリに分けて表示している。タグ機能で10進分類法から図書を探すこともできるように登録してある。

ソーシャルメディアを利用することには必ずリスクが伴う。業務量の極端な増加や投稿した内容でネット炎上（想定外の非難・批判・誹謗中傷等のコメントなどがあること）がないように、簡易かつ安全で自館にあった運用をする必要がある。

ソーシャルメディアは万能ツールではなく、劇的に来館率が上がるわけでもない。またそれを使う利用者は一部に限られるかもしれない。しかし、間違いなく今まで以上に利用者との距離を縮め、より良いサービスを提供できる手段の一つであると考えている。



ブックログの本棚